

災害対策特別委員会「今後の展望」

委員長 金沢大学附属病院 中出順也

令和6年元日、未曾有の大災害が発生しました。

この令和6年能登半島地震に際し、発災初日より本会は日本病院薬剤師会（日病薬）と密に連携を取り、会員・非会員施設問わず能登地区の病院薬剤部門被災状況の状況収集を開始しました。その後、発災4日目に本会・日病薬のミーティング（災害対策緊急会議）を開催（同年3月末まで継続開催）し、日病薬災害登録派遣薬剤師制度やボランティア薬剤師制度を活用した石川県内の病院薬剤部門への支援を開始することが決定しました。さらに発災7日目には、同ミーティングにて石川県病院薬剤師会の災害担当者が日本DMAT隊員として活動していた石川県庁内の石川県保健医療福祉調整本部に日病薬現地調整本部を設置することが決定されました。そして、10日目より病院薬剤師の災害派遣を開始し、36名の日病薬災害登録派遣薬剤師、48名の災害ボランティア薬剤師による医療機関11施設での医療支援活動や現地調整班活動が実施され、延べ572名の薬剤師の先生に活動いただき、3月22日に全ての病院薬剤師会からの災害派遣を終了しました。

能登地区の復興と今後の災害対策を見据え、被災県の病院薬剤師会として日病薬災害登録派遣薬剤師への登録支援や災害医療・災害薬事に関する教育並びに情報提供等を会員の皆様に実施するため、本会役員会（令和5年度第4回役員会）にて議論いただき令和6年度より石川県病院薬剤師会に災害対策特別委員会を設置することとなりました。

今後、日本病院薬剤師会災害対策委員会、行政、石川県薬剤師会等の職能団体および災害関連学会等と連携して委員会活動を充実させるとともに、万が一の発災時には迅速に病院薬剤師会としての災害支援活動を開始できるよう努めてまいります。

令和6年6月11日